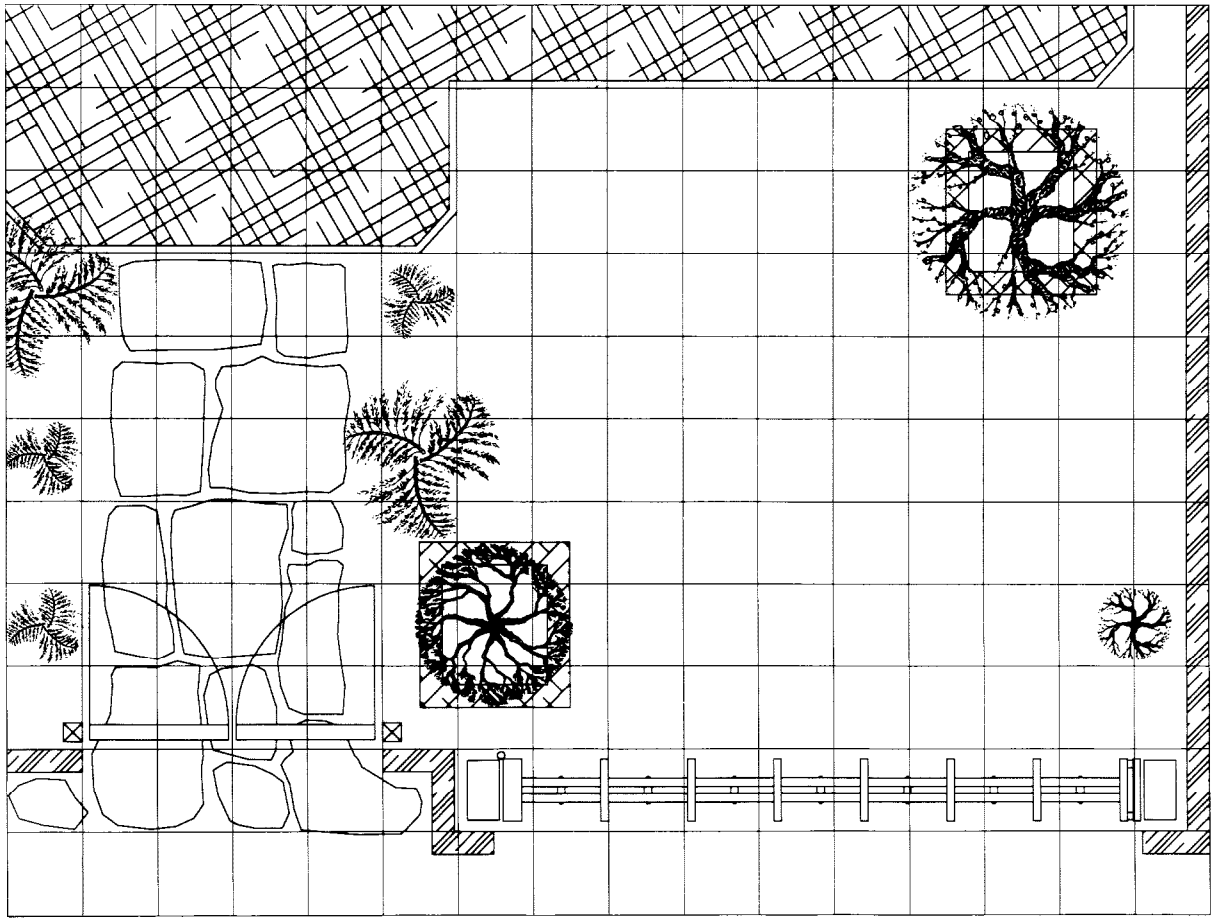
新日軽伸縮門扉

取説番号 ME-1185

エクジスSH型
ハンガー式

取付取扱説明書

■ 新日軽伸縮門扉《エクジスSH型》ハンガー式をお買上げいただきありがとうございました。
末永くご使用いただくため取付取扱い説明書をよく読んでいただき正しい施工・正しい取扱いをお願いいたします。



新日軽株式会社

■ お客様へ　　取扱いの手引

■ 《エクジスSH型》ハンガー式をお買い上げいただきましてありがとうございました。
いつまでもご使用いただくため、下記の事項にご留意くださいますようお願いいたします。

1 この《エクジスSH型》ハンガー式はアルミ製ですが、いつまでもきれいに気持よくご使用いただくため時々、布で表面の汚れを拭き取って下さい。

2 子供などのいたずらで扉に乗って走行させるなど無理な使い方をしますと故障の原因ともなりかねませんのでご注意下さい。

3 《エクジスSH型》ハンガー式には落し錠受けがついていますので、扉を開いた時も、閉じた時も、必ず落し錠をお使いください。

4 開閉時に指などをはさまない様に注意してください。

■ 施工店名

■ 注意事項

新日軽のアルミ製品はＪＩＳの表面処理規定を十分クリヤーした製品をお届けしていますが、取扱いによっては異状腐食をおこし思わぬトラブルとなりますので、施工にあたっては次のような点を注意してください。

①モルタル用に**海砂**を使用されますと、塩分が多量に含まれていますから腐食の原因になりますのでその使用を避けていただくか、十分水洗いしたものを使用してください。

②モルタルやコンクリートの**抽出液**が工事中にアルミ製品の表面を流れないように注意してください。
抽出液は強アルカリ性で、しみやむら等の外観不良や腐食の原因になります。

③モルタルやコンクリートの**急結剤**は腐食の発生や促進作用があるのでその使用を避けていただくか、塩化カルシュウムや塩素系の化合物・硅酸ナトリウム等の入っていないものを使用してください。

④施工時にアルミ製品の表面に**付着**したモルタルやコンクリート等は速やかに清掃してください。また、表面にキズをつけますと腐食しやすくなりますので取扱いには十分注意してください。

⑤アルミ製品と**銅板やラス等**の異種金属が接触しないようにしてください。
接触する場合にはビニールテープ等を貼るか塗料等で絶縁処理をしてください。

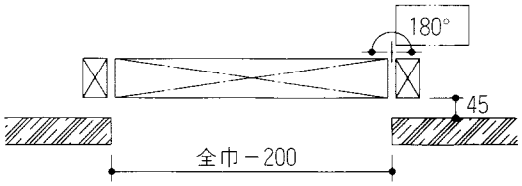
⑥腐食の恐れのある**接着剤や化学薬品**を施工上使用する場合は、アルミ製品と接触しないようにしていただくか、接触する部分を完全に養生してください。

■《エクジスSH型》ハンガー式施工納まり図

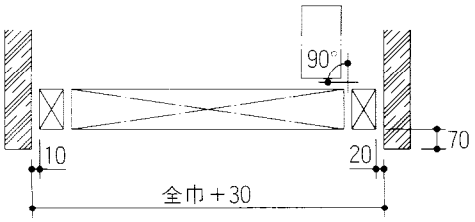
■ 下図に示した以外の納まりの場合などは下図の納まりの組合せによって施工して下さい。

■ 片開き納まり

塀と平行になる場合

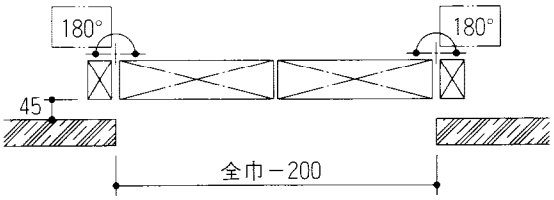


塀と直角になる場合

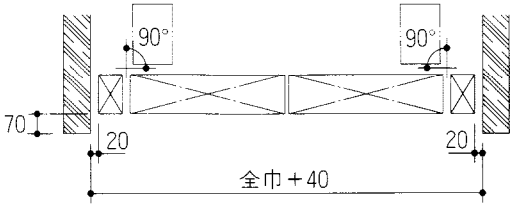


■ 両開き納まり

塀と平行になる場合

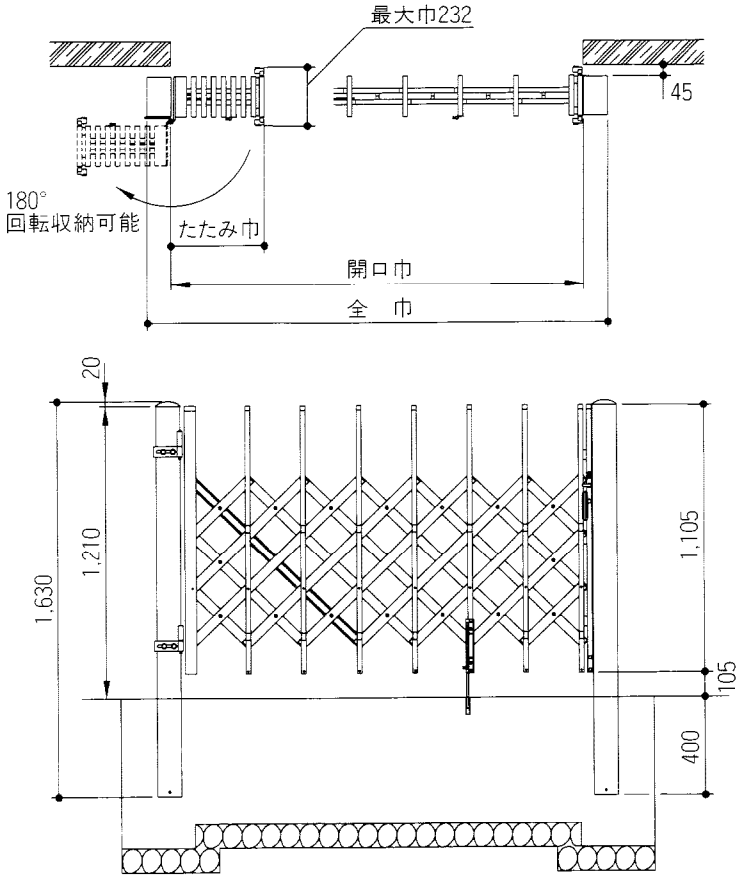


塀と直角になる場合

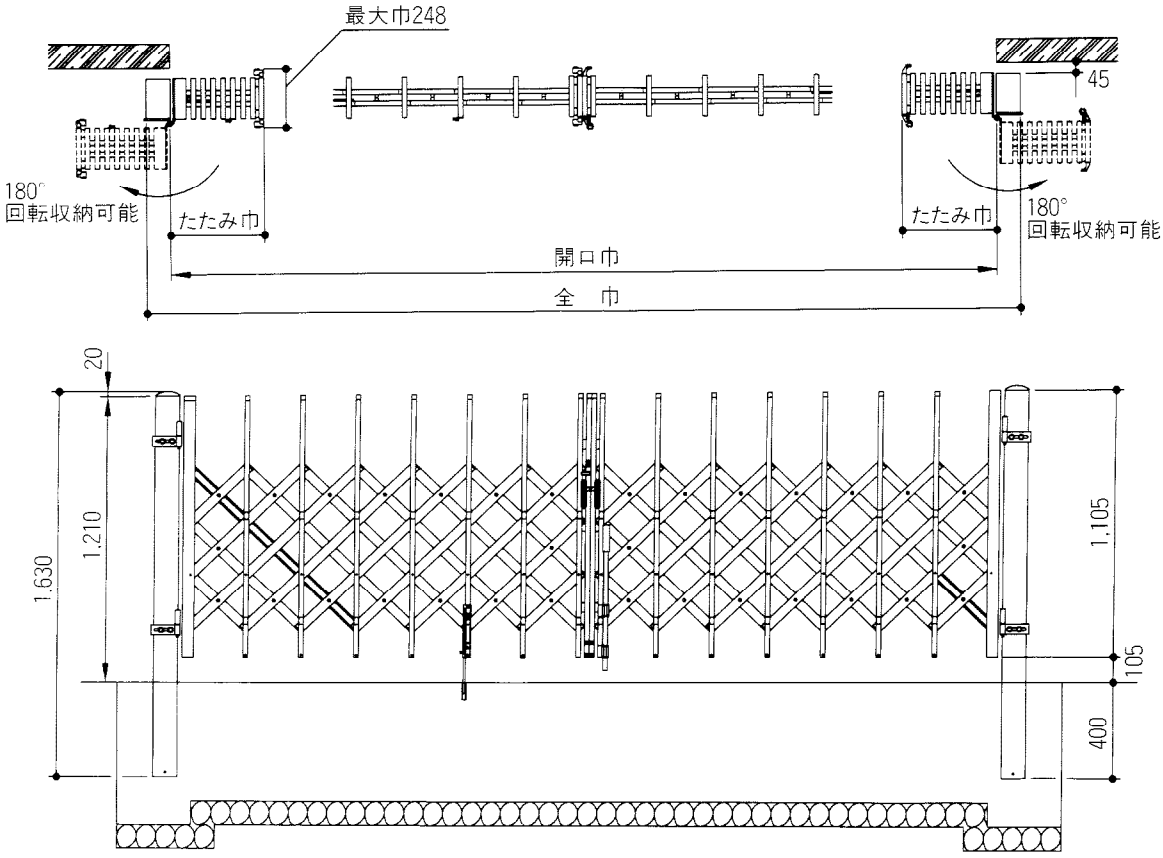


本体図

片開き


最大巾232
45
180°
回転収納可能
たたみ巾
開口巾
全　巾
20
1.630
1.210
1,105
105
400

両開き


最大巾248
45
180°
回転収納可能
たたみ巾
たたみ巾
180°
回転収納可能
開口巾
全　巾
20
1.630
1.210
1,105
105
400

■ 仕様・部品明細

型式		全巾 ㎜	開口巾 ㎜	たたみ巾 ㎜	様式
CPSDA（コハク）	12S	1218.5	1018.5	264.5	片開き
	16S	1678.5	1478.5	346.5	
	19S	1908.5	1708.5	387.5	
SPSDA（セピアブラック）	22W	2229	2029	264.5×2	両開き
	31W	3149	2949	346.5×2	
	36W	3609	3409	387.5×2	

名称	略図	片開き			両開き		
		12S	16S	19S	22W	31W	36W
落し錠受け（大）φ27.2×70L		—	—	—	2	2	2
落し錠受け（小）φ18.1×70L		2	2	2	2	2	2
アンカー棒 φ9×200L		2	2	2	2	2	2
鍵		1	1	1	1	1	1

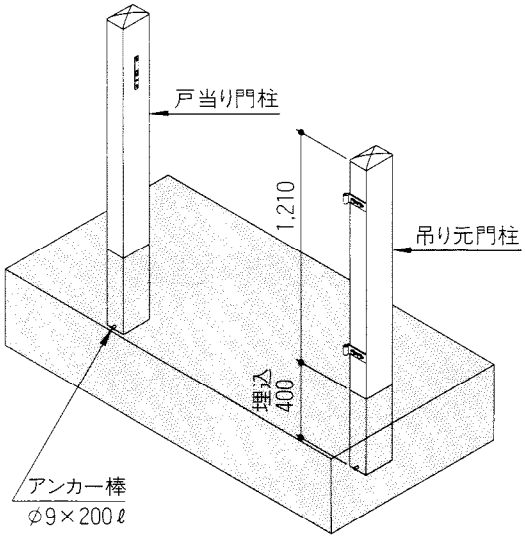
1 はじめに

■ 本体から吊り元門柱を分離する時には、3ヒンジ取付法を参考に割ピンを抜き取り、ヒンジピンを上下共引き抜いて下さい。

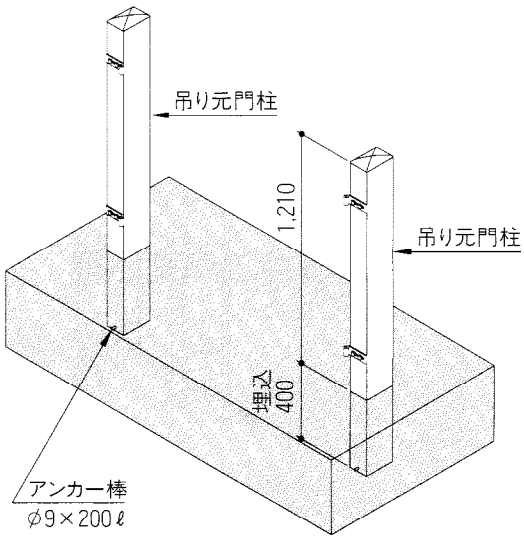
2 門柱の取付方法

■ 門柱埋込位置は、施行納まり図を参照して下さい。
門柱は垂直に埋込んで下さい。

■ 片開き

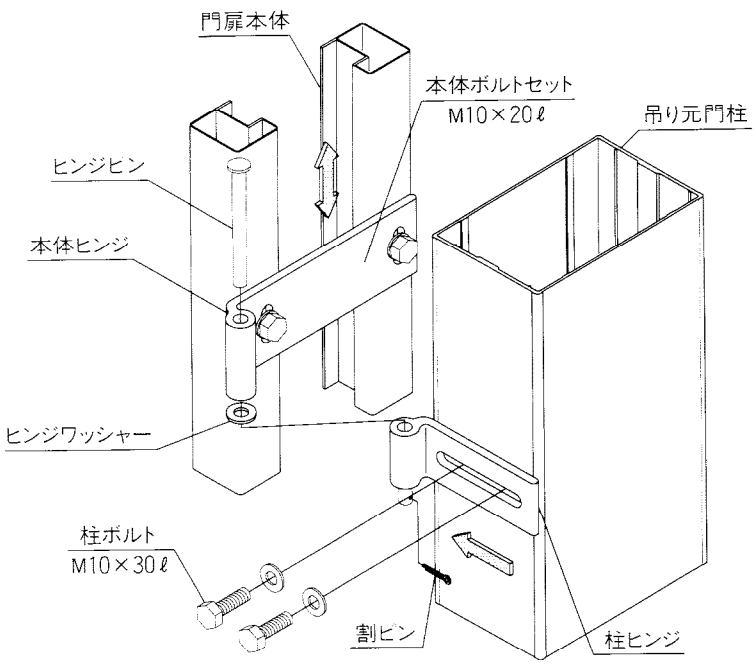


■ 両開き



3 ヒンジ取付方法

《片・両開き共通》



■ 1. 本体の取付けは左図のように柱ヒンジと本体ヒンジの間にヒンジワッシャーを1枚入れ、ヒンジピンを上側より差し込みヒンジピンの下部に割ピンで抜け止めをして下さい。

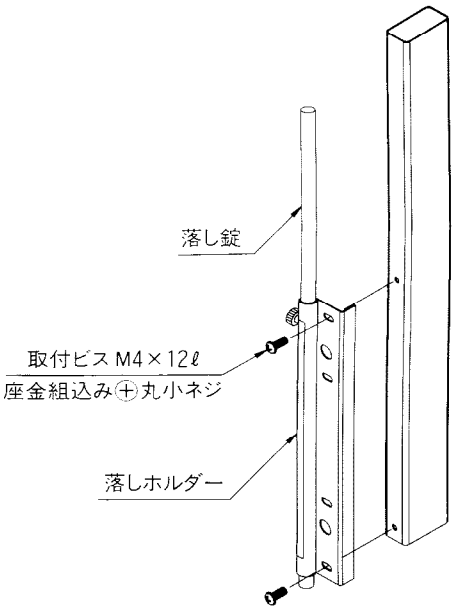
2. 扉本体を道路側より見て、右吊り元で梱包してありますので左吊り元で施工される場合には、柱ボルト及び本体ボルトセットを抜き取り、柱ヒンジ及び本体ヒンジの丸穴が家側に向く様セットし、1. の項目通りヒンジピンをセットして下さい。

3. 扉本体施錠枠の高さ(G.L.より105㎜)・倒れ・ねじれ等の調整は本体ヒンジ、柱ヒンジの長穴を使用し本体ボルトセット、柱ボルトをゆるめ調整後固定して下さい。

4. クッションゴムは吊り元門柱に本体ボルトセットが当る位置に貼付けて下さい。

4 落し錠の操作方法

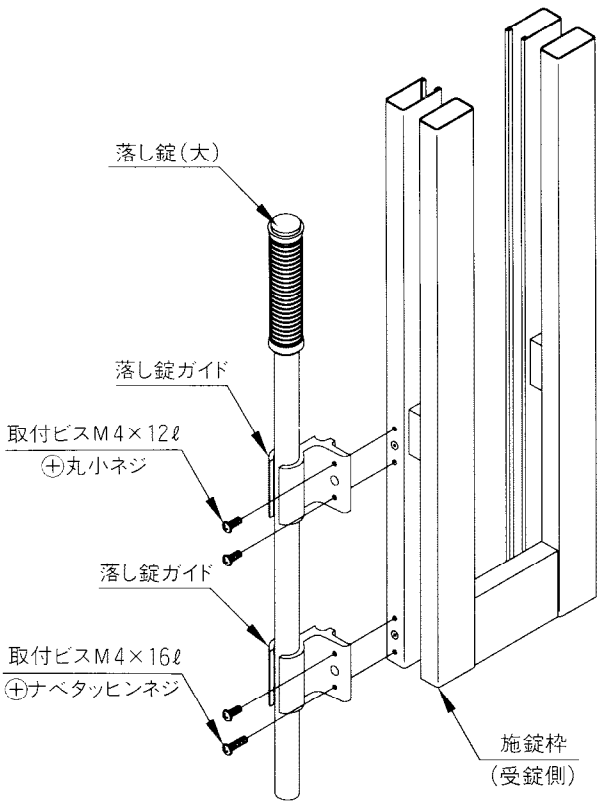
《片・両開き共通》



■ 6を参照して落しホルダーを取替えて下さい。

尚、本体を回転収納させる場合は、使い勝手を考慮し取替えて下さい。

5 両開き用先端落し錠の取付方法



■ 1．落し錠(大)の組替えは左図のように取付ビスM4×12ℓ⊕丸小ネジとM4×16ℓ⊕ナベタッピンネジをゆるめ、落し錠ガイドを取り除いて下さい。

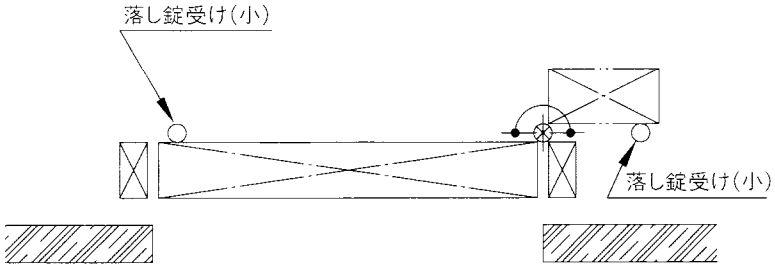
2．落し錠ガイドの取り付いていた反対側のビスM4×10ℓ⊕ナベ小ネジとM4×16ℓ⊕ナベタッピンネジを取り除き、落し錠ガイドを組み付け不要になった取り付穴には取り外したビスを取り付けて下さい。

注）落し錠ガイドは丸穴部に切り込みのある方を下側に取り付けて下さい。

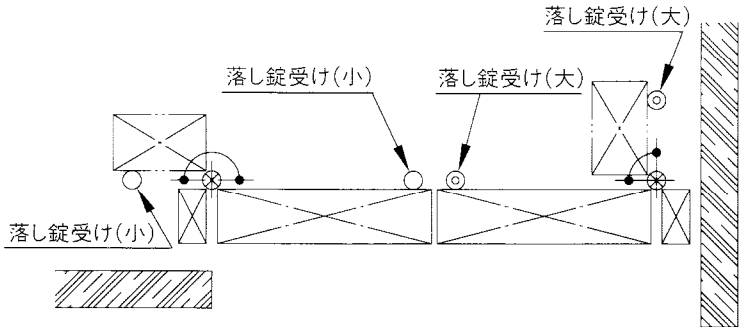
6 落し錠受けの設置

■ 落し錠受けの位置は左図を参照し現物合せで施工する様にして下さい。

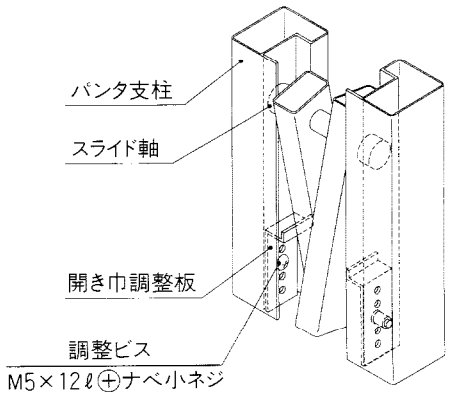
■ 片開き



■ 両開き

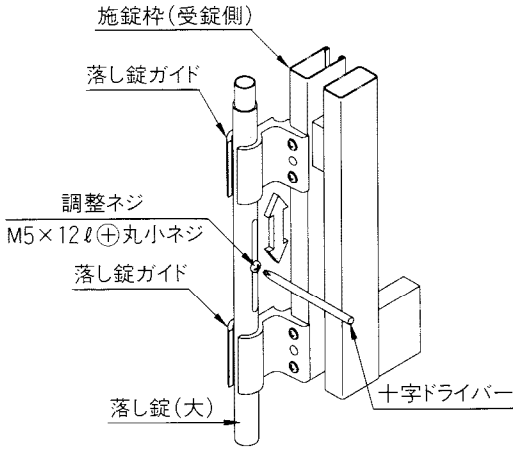


7 扉本体の開き幅調整 《片・両開き共通》



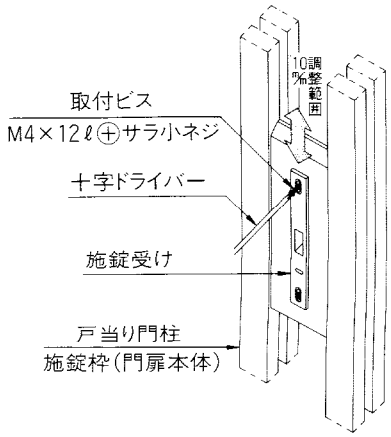
■ 開き幅調整板は吊り元側のパンタ支柱上段に1ヶ所セットしてあります。開き幅調整板は工場出荷時最大の開き幅になる様セットしてありますので、基準開き幅以下で設置された場合には、かならず扉本体が伸びすぎにならない様、施錠を掛けた位置でスライド軸に当る様調整板を移動し調整ビスを固定して下さい。

8 両開き用先端落し錠の高さ調整



■ 落し錠(大)付施錠枠の高さが仕上り面より105㎜以上の高さに設置した場合には、左図の様に落し錠(大)にセットしてある調整ネジをゆるめ調整して下さい。
尚調整の基準は施錠枠（受錠側）が垂直に立つ事が必要です。大巾な調整が必要な場合には3のヒンジ取付方法の項目により再調整して下さい。

9 施錠受け・施錠位置決めの高さ調整 《片・両開き共通》



■ 施錠合せ等の高さ調整が必要な場合は、左図のように取付ビスをゆるめて施錠受けを上下調整してください。

おわりに

■ 以上で取付は完了ですが、お客様に正しく取扱っていただくために表紙裏に取扱いの手引きの欄を設けてありますので施工完了後は、表紙の頁は切り離してお客様にお渡し下さい。